

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	14_神奈川県
市区町村名	14215海老名市
自治体区分	

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
14215海老名市	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	共働き世帯の増加、PTA活動の見直しなどに伴い、保護者がボランティアとして学校に関わる機会が減少している。フルインクルーシブ教育の推進にも取り組んでいるため、より多くの保護者、地域の参画を促し、学校を核とした地域づくりを進めていく必要がある。	・保護者との意見交換の場を設け、保護者の声をいかに活かした取り組みを進める。 ・学校運営協議会や地域学校協働本部の活動を、市のSNSやHP、学校だよりなどを通じて学校と連携しながら積極的に広報し、活動に関わる方を増やしていく。 ・地域コーディネーターを中心に、情報交換する機会を設け、よい取組を市内全域に広めていく。（2ヵ月に1回程度）	・令和6年度は、自治会回覧等で周知を図ったが、大学生や高校生には届きにくかったため、SNS等を活用した周知を検討していく。また、保護者の方の思いを聞く機会を設けることで、1人でも多くの方に関わっていただきながら学校運営を進めていきたい。	・こどもと大人、大人と大人のつながりを学校という場でつくることにより、地域の活性化を図る。 ・幅広い地域の方が、学校の目指す方向性を共有して参画していただくことで、地域と学校の協働を進め、学校の負担を軽減する。	大学生・高校生ボランティアの人数 保護者ボランティアの延べ人数	25 310	人	35 500	39 415	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる ・大学生や高校生など、若者の参画については、徐々に定着してきた。若者が事業に関わってくれることで、事業が活性化されたとともに、こどもを真ん中にしたより幅広いつながりができつつある。「サーモン化計画」という考え方（卒業生が地元に戻ってくる）を研修で伺ったことがよいきっかけとなっている。研修については引き続き継続していきたい。 ・保護者については、PTA活動の見直し、共働き世帯の増加もあり、なかなか難しい現状があり、保護者と対話する場にも多くの保護者に来ていただくことが叶わなかった。しかし、懇談会や土曜日などの事業には多くの保護者が来校する姿もあったため、学校とより連携しながら保護者への周知・啓発を図っていく必要がある。
14215海老名市	③学校と家庭の課題	02 放課後等における多様な体験活動	放課後児童クラブの利用率が他市町村と比べても高く、放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携や学校も交えた情報共有を進めていくことが必要である。	・放課後児童クラブとの協議会を学期に1回以上実施し、関わる大人同士が意思疎通を図る。その上で、放課後児童クラブに通う児童が放課後子ども教室に参加しやすい体制や雰囲気をつくる。 ・地域の方や企業の力を借りた講座を実施し、魅力ある放課後子ども教室を展開する。	・関わる大人同士が顔見知りになることで、自然と連携をとれるようになってきた教室がある。大人同士のつながりをつくる取り組みは継続していく。	・こどもを中心とした大人同士のつながりができ、多くの目でこどもを見守る体制をつくる。 ・連携を深めることで、より多くの児童に多様な体験活動を提供することができ、児童の興味関心を広げることができる。	放課後児童クラブに通う児童の放課後子ども教室への参加数	R6 5581	人	6,000	4,935	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる ・放課後児童クラブの利用率が県内で一番高い状況が続いており、特に低学年での利用がとても多い現状である。学校から近い児童クラブは、よく放課後子ども教室を利用する傾向にあるが、離れたところにあると、距離的に教室への参加が難しい現状がある。支援員とサポーターのつながりができてきたところでは、こどもたちが自分の意思で行き来している様子もある。まずは受け入れる体制をつくるために、大人のつながりづくりは継続し、保護者にも理解を求めながら、放課後児童クラブに通うこどもであっても、参加できるような放課後子ども教室の体制を整えていきたい。